

退職

文学部着任以来、長きにわたり教育・研究ならびに大学運営にご尽力いただきました先生方が、2016年3月31日をもって定年を迎えられます。退職記念講演が行われる場合は文学部校友会HPならびにFACEBOOKにてお知らせいたしますので、ご確認ください。



片平博文教授  
地域研究学域  
地理学専攻  
1985年4月着任



PEATY DAVID教授  
コミュニケーション学域  
国際コミュニケーション専攻  
1992年4月着任



望月 昭教授  
心理学域  
心理学専攻  
1998年4月着任

同窓会開催補助金のお知らせ

クラス・ゼミの同窓会

研究入門  
基礎講読  
基礎実験実習  
演習I-II  
ゼミナールI-II(テーマリサーチ)

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が参加するもの

上記に該当する同窓会活動に関する経費を補助させていただきます。

■補助内容

同窓会開催に関する経費、記念誌印刷、案内郵送料、同窓会HP作成など同窓会活動に関する経費について補助します。

申請団体	補助の根拠	補助金額
専攻・同窓会	規約のない場合は専攻主任または教員の確認印。	実費支給上限50,000円
クラス・ゼミ	担当教員の確認印。確認が取れない場合は文学部校友会事務局に相談。	実費支給上限10,000円

申請方法など、詳細は立命館大学文学部校友会ホームページ「同窓会開催補助費」のページをご覧ください。  
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

訃報



■文学部教授 河角龍典先生(地域研究学域 京都学専攻)は2015年4月13日にご逝去されました。  
謹んで心よりご冥福をお祈りいたします。  
<在職期間 1999年4月~2015年4月>



■名誉教授 江口信清先生(地域研究学域 地域観光学専攻)は2015年4月16日にご逝去されました。  
謹んで心よりご冥福をお祈りいたします。  
<在職期間 1986年4月~2015年3月>

文学部校友会に入会しませんか?(2006年度以前にご卒業の皆様)

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。設立年度にご賛同いただいた会員の皆様は約1,000名、2007年度以降の卒業生の会員は約8,800名を数え現在、約9,800名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、幅広い卒業生のネットワークを構築し、文学部卒業生として卒業後も交流していただくこと、その中で学生・大学院生を見守り、ともに後輩を育てていただくことを目的としてさまざまな活動・事業に取り組んでおります。そして、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生のみなさまや文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。

校友会入会にあたっては、終身会費として1万円の会費の納入をお願いしております。文学部校友会の趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【文学部校友会入会手続きについて】

2006年度以前にご卒業の方が、新規にご入会いただける場合は、お手数ですが、下記までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。  
立命館大学 文学部校友会 電話:075-465-8187(文学部事務室内)  
mail:ltalumni@st.ritsumei.ac.jp

伝言板

■地理学同窓会総会・懇親会(同窓会75周年祝賀会)

【日 時】2015年11月28日(土)受付17時30分~  
総会:18時00分~ 懇親会:18時30分~20時30分(予定)  
【会 場】Tawawa 二条店(立命館大学朱雀キャンパス7F)

皆様の声をお聞かせ下さい!

文学部校友会のこと、文学部のこと、立命館大学についてのこと、何でもけっこうです。  
次号より「会員の声・L'eternal VOICE」に掲載していきます。文学部校友会までおたより下さい。

秋のイベント情報

2015年度 文学部校友会総会／懇親会「日本酒と和食と、京焼を楽しむ会」  
11月21日(土)京都ホテルオークラ 3F 翠雲 Vol.7 2015

ご挨拶



文学部校友の皆様、いつも何かとご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私が会長に就任いたしましたから早や4年の月日が経ちました。

当時総会出席者は100人に満たず、しかも若い校友は数名という寂しい状態でした。そこで私が会長になって先ずやらなくてはならない事は、明るく、楽しい総会を企画して出席者を増やす事だと考え、口角泡を飛ばして議論をし、旧友や恩師と学生時代を懐かしむもよし、老いも若きも世代を超えた新たな出会いの場を創り出さなくてはということで、いろんな事を手掛けました。

京都の知られざる名所や穴場の探訪日帰りツアーをやったり、襲名披露興行中の四代目市川猿之助丈の講演会を行ったり、クラスやゼミの同窓会に、わずかですが補助金を出したり、私達の活動を広く知っていただくためにホームページや会報にも力を入れました。

こうしたさまざまな努力の効果があったのでしょうか、今年の

立命館大学文学部校友会 会長 中小路 宗隆

「日本酒と和食を楽しむ会」には、校友会始まって以来の200名という多くの人達が出席して下さって大喜びいたしました。しかもその人達の約6割が20代の若者で、「若い自分達はなかなかこうした会に出席する機会がないので、とても嬉しかった」「1人参加で心配していたけれども同じテーブルのいろんな年代の人達と楽しくおしゃべりする事が出来て良かった」などと嬉しい感想を聞くことが出来、校友会の未来に明るい展望を感じる事が出来ました。

この春私達は1093名もの多くの仲間を迎え入れました。私達はあと2年、2017年に10周年を迎えます。校友の皆様、立命館大学文学部という同じ釜の飯を食った者同志の絆をより確かなものとするため、今年の総会・懇親会には是非ご参加ください。そして未来に向かって大きくはばたくために、更なるご支援ご協力を頂きますようお願い致します。11月21日の楽しい出会いを期待しています。

(1955年 哲学専攻 卒業 長岡天満宮・名誉宮司)

CONTENTS

- 01 ご挨拶  
立命館大学文学部長 藤巻 正己  
LETTERSクイズ
- 02 特集① 2015年度文学部校友会  
第5回 総会  
懇親会：日本酒と和食と、  
京焼を楽しむ会
- 03 2014年度 イベント報告  
2014年度立命館大学文学部  
校友会決算書  
文学部校友会ロゴ決定!!
- 04 2014年文学部ゼミナール大会  
校友会長賞  
専攻紹介 ピックアップ  
コミュニケーション学域 国際コミュニケーション専攻  
ウェルズ 恵子教授
- 05 特集② 文学部校友の「いま」
- 07 Information

LETTERS  
クイズ

第6号のこたえ

第6号のQは「広小路学舎・清心館と衣笠  
キャンパス・清心館、どちらが使用年数が  
意外や意外 長いでしょうか?」でしたが、正解は…

「衣笠キャンパス・清心館」

広小路学舎・清心館は、1957年4月に竣工、  
1981年4月に全学舎が衣笠へ移転するまで  
の24年間にわたって学生たちの学び舎とし  
て使用されました。これに対し、現在の衣笠  
キャンパス・清心館は1977年に竣工し、爾来  
38年間、文学部生を見守り続けています。

文学部クイズへのご応募ありがとうございました。

Q 現在立命館大学は、文学部の他、法学部・経済学部・  
経営学部・産業社会学部・国際関係学部・政策科学部・  
映像学部・理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学  
部・スポーツ健康科学部の13の学部を擁していますが、  
文学部の設置はこの中で何番目でしょうか?

正解者の中から抽選で10名様に文学部校友会グッズをプレゼントします。

◆**応募方法** クイズの答えとお名前・ご住所・ご感想をご記入の上

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学文学部校友会 までお送り下さい。

発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

◆**応募締切** 2015年11月30日(月) 消印有効



ご挨拶

立命館大学文学部長 藤巻 正己

文学部校友の皆様には、日頃から文学部への  
ご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。  
おかげをもちまして、文学部は創立88周年を迎  
え、教育・研究面でも内外から高い評価を受け  
ております。

さて、文学部では2012年に8学域18専攻制へ  
と学部改革を実施しました。学生諸君が多角的  
視点から人文学を学べるように、幾つかの専攻  
を組み合わせた学域を構成し、入試を学域単位  
で実施し、2回生から希望する専攻に所属する  
仕組みを構築しました。これにより、21世紀の新  
たな人文学的知が発信できる体制が整えられ  
たものと確信しています。なお、長年にわたり文  
学部人文学教学の柱であった心理学専攻を母  
体として、2016年度には大阪いばらきキャン  
パスに総合心理学部が開設されます。これにとも  
ない、2015年度入試をもって心理学域の募集は  
停止されることになりましたが、同年度およびそ  
れ以前の入学生につきましては、卒業に至るま  
で文学部生としての確かな学びの保証を確約  
いたします。

大学院も2014年度より、人文学専攻・行動文  
化情報学専攻の2専攻から構成されることとな  
り、とりわけ新設の行動文化情報学専攻では、伝  
統的人文学の蓄積に最新のデジタル人文学や  
自然科学・社会科学等を融合させてのプロジェ  
クト型研究がカリキュラムに組み込まれることとな

りました。また、新たに現代東アジア言語・文化学、  
文化動態学(総合人文学から改称)、英語圏文化、  
考古学・文化遺産、文化情報学の5専攻が設置さ  
れ、これまで以上に幅広い人文学研究に取り組  
んでいるところであります。

文学部教学の国際化に関しましては、2011年  
に文部科学省から採択された「キャンパスアジ  
ア」パイロット事業が今年、最終年度を迎えます。  
日韓中の学生がそれぞれのキャンパスを移動し  
ながら学びあう(キャンパスアジア・プログラム)  
(CAP)は、新しい国際教育のモデルとして国内  
外から注目を集めてまいりました。2016年度か  
らは、CAPは常設化されることとなります。昨年  
度、立命館大学は、APUとともに文部科学省によ  
り(Super Global University:SGU)として認証さ  
れましたが、日韓中三大学連携によるCAPは  
SGUとしての取り組みの一翼を担うものとして  
期待されています。このほか、2012年度からは  
学部独自の共同学位プログラム(DUDP)を、カ  
ナダ・アルバータ大学との間で開始し、英語圏の  
国際教育にも注力しております。

このような文学部の発展も、校友の皆様方の  
社会での活躍、および文学部への厚いご支援  
の賜物と思っております。この場を借りてお礼申  
上げるとともに、今後とも変わらぬご支援のほど  
お願い申し上げます。

特集① 2015年度文学部校友会  
総会・懇親会案内

2015年度 文学部校友会

日時 / 2015年11月21日(土) 16:00受付  
会場 / 京都ホテルオークラ 3F 翠雲  
京都市中京区河原町御池 TEL 075-211-5111

総会

16:30~17:10

2年に一度の総会です。文学部校友会の活動報告ならびに予算についてご報告いたします。  
今後の文学部校友会活動につきまして、皆様のご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです。

懇親会

17:30~19:30

日本酒と和食と、  
京焼を楽しむ会

とっておきの美酒を  
仲間とともに酌み交わす。  
至福の時を再び、  
文学部校友にお届けします。  
今回の日本酒は、  
銘酒「神聖」「松の翠」でおなじみの、  
江戸時代初期創業、京都伏見の  
老舗酒蔵「山本他家」様にご協力  
いただきます。お楽しみに。

2014年度卒業生と卒業後50年以上の皆さまは、  
参加費無料といたします。

ミニ  
講座

「『衣笠焼』誕生  
—立命館の土が京焼に—」



陶芸家  
清水志郎氏  
X  
文学部 日本史研究学域  
考古学・文化遺産専攻  
木立雅朗教授

※写真はイメージです。

2016年4月竣工予定の衣笠キャンパス新図書館、「平井嘉一郎  
記念図書館」の建設地から見つかった粘土が、京焼きに生まれ  
変わりました。

立命館発の京焼きの誕生秘話、そして京都の伝統産業にかける  
思いを語っていただきます。

◆当日抽選で『衣笠焼』ぐいのみプレゼントします。

◆**参加対象** **先着200名** 定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

文学部校友会員 ※文学部卒業生

※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください。詳細は、会報P.7「文学部校友会に入会しませんか?」をご覧ください。

◆**参加費**

文学部校友会員 **1,000円**

非会員：入会いただいていない方・文学部校友会員の同伴の方(1名様に限らせていただきます) **2,000円**

2014年度卒業生(2015年3月・2014年9月)の方、卒業後50年以上(1965年《昭和40年》3月以前卒業)の方は、無料でご招待いたします。

◆**応募締切**

**10月15日(木)までに、この会報「LETTERS」第7号折込みハガキでお申込ください。**

定員に達し次第、受付を終了させていただきます。文学部校友会HP、FACEBOOKにて、受付状況をお伝えしていきますので、  
ご覧ください。

◆**お問合せ**

文学部校友会事務局 TEL. 075-465-8187 FAX. 075-465-8188 月~金 9:00~17:30(ただし土日祝日を除く)



## 2014年度 文学部校友会イベント報告 日本酒と和食を楽しむ会

2014年11月22日(土) 京都ホテルオークラにて「日本酒と和食を楽しむ会」を開催いたしました。当初予定を大きく上回る200名以上のお申込をいただき、参加者の半数以上が20代の卒業生という華やかな雰囲気の中、大いに盛り上がりました。  
◆日時 2014年11月22日(土) 16:00受付(16:30~19:00)  
◆会場 京都ホテルオークラ 4階 暁雲



### ミニ講座

講師に京料理 木乃婦3代目ご主人、高橋拓児氏をお迎えし、「日本酒の上手な嗜み方」をお話いただきました。日本の豊かな漁場から生まれる魚料理と日本酒の相性の良さ、また世界中で日本酒ファンが増加しつつある今、和食と日本酒の良さを世界に向けて発信しておられ

ることを、「和食」の世界無形文化遺産への登録にご尽力されたことからお話いただきました。お食事前に、前菜から水物まで、それぞれのお献立に合った日本酒の選び方を軽快にわかりやすくお話いただきました。



### 懇親会



あまりの人気に大会場に変更しての開催となりました。会場には「飛露喜」「浦霞」「磯自慢」「瀬祭」「豊杯」などなど、高橋氏お奨めの銘酒の数々がずらり。オープニングは校友会役員による「英熟」上撰のみなみと入った樽の

鏡開きで、威勢よく始まりました。

参加者のあまりの酒豪ぶりに、お酒が足りなくなるなどのハプニングもありましたが、初対面でも同じ文学部出身ということですぐ



に打ち解けて、選りすぐりの日本酒を酌み交わし、和食に舌鼓を打ちつつ、各テーブルでは歓談の花が咲きました。

宴もたけなわとなる頃、ホテルオークラのディナー券や銘酒の数々が当たる抽選会が行われ、当選者が発表となるたび大きな歓声があがり、会場は大いに盛り上がりました。

特に、若い校友の方より「このような企画ならば是非また参加します!」とお帰りの際にお声かけいただいたことを大変嬉しく感じております。今後も、より多くの校友の方々に参加いただけるような企画を心がけて参ります。



## 2014年度 立命館大学文学部校友会 決算書

(会計期間: 2014年6月1日~2015年5月31日) (単位:円)

項目		2014年度予算額	2014年度決算額
収入の部	前年度繰越金	52,042,184	52,042,184
	会費(卒業生・教職員)	100,000	90,000
	会費(在校生)	12,000,000	11,440,000
	雑収入	300,000	229,569
	小計	12,400,000	11,759,569
合計	64,442,184	63,801,753	
支出の部	会報発行	1,000,000	847,914
	シンポジウム等印刷費	100,000	61,020
	入会記念品	2,700,000	2,160,982
	ホームページ運営	500,000	30,651
	学生・大学院生支援	250,000	10,000
	企画・懇親会関連	2,500,000	3,942,976
	運営関係	600,000	106,207
	専攻・ゼミ同窓会活動補助金	1,000,000	870,000
	文学部創立90周年記念事業積立金	1,000,000	1,000,000
	予備費	54,792,184	0
	小計	64,442,184	9,029,750
差引(次年度繰越金)	0	54,772,003	
合計	64,442,184	63,801,753	

### 校友会資産残高(2015年5月31日現在)

繰越金	
京都銀行	54,543,708
ゆうちょ銀行	140,069
現金	88,226
積立金	
文学部創立90周年記念事業	3,000,000

## 2014年度 文学部ゼミナール大会 校友会会長賞

### 「京都と瓦鍾馗」

京都学専攻3回生(受賞当時) **すぎやま みなこ** さん

私は2014年度文学部ゼミナール大会において、「京都と瓦鍾馗」というテーマで発表し、校友会会長賞をいただきました。京都学専攻で研究をするに当たり、京都には文化、歴史、文学など研究対象となり得る要素が数多くありました。専攻での学びを深めていくうちに、観念的に京都に切り込むのではなく、折角京都で学べるのだから、現在の京都を自分の目で見て足で歩いて、京都の「いま」を知らなければならぬと感じるようになりました。そして、京都を知るためにはそこに暮らす人々を知る必要があると考えました。京都には今もなお、一般住宅に魔除けが多く残っている点に目を付け、中でも「鍾馗さん」と呼ばれ、人々に親しみをもたれている瓦鍾馗を取り上げてそれに対する意識を、実地調査を主として研究することにしました。

ゼミナール大会参加のきっかけは、友人からの誘いでした。こういったことに自分から積極的に参加する方ではなかったの

すが、そのときから卒論研究には力を入れていたので卒論研究の向上のために、また、自分への挑戦という意味も込めて参加させていただきました。大人数の前で発表すること自体初めての経験だったので、大変緊張してしまい、発表は悔いの残るものでした。また、様々な分野の先生方から意見をいただき、まだまだ詰めが甘いと思い知らされるところも多かったです。しかし、所属専攻以外の方にも興味を持っていただき、評価していただいた点は大変嬉しく、一層頑張っていこうと思えました。大会に参加することで私はひとつ壁を乗り越え、また乗り越えるべき壁に出会えました。この経験は私に自信と成長を与えてくれました。



鍾馗(しょうぎ)さん

## 専攻紹介 ピックアップ

コミュニケーション学域 国際コミュニケーション専攻 **ウェルズ 恵子** 教授

国際コミュニケーション専攻(以下、国コミ専攻)は、文学部の国際化をになうべく2012年に発足しました。今年4回生になった1期生は、いま、英文の卒論執筆、教育実習、就職活動などに

頑張っています。3回生は先輩に学びつつ自分の論文テーマを固めようと一生懸命勉強中です。国コミ専攻には英語開講の専門科目やネイティブの先生が担当する多数の英語科目があります。しっかり語学力をつけつつ各自の興味にあわせ、エリアスタディや英語圏文化、多文化・多言語共生に関わる問題、英語学や英語教育



2014年度ゼミ3回生論集表紙

を研究します。私のゼミでは「英語圏文化」を扱い、卒論テーマはカラフルです。ジャズやブルースなど黒人音楽、おとぎ話や妖精物語、ファンタジーやSF作品、アメリカ・イギリス・カナダの小説や児童文学、ロビン・フッドなどの伝説、ラフカディオ・ハーンのように英語圏と日本とで活



躍した人の研究などです。

国コミ専攻の特徴は、学生のやる気の高さです。毎年、海外から講師を招いた講演会や交流企画がありますが、学生有志と大学院生(英語圏文化専修)が協力して準備を手伝います。2013年度は5人の講師をアメリカから招き、フォークソングコンサートつきのシンポジウム、2014年度は講演「ヒップホップとアフリカ系アメリカ人文化」とHiphopパフォーマンス、今年度は11月にジャマイカ駐日大使の講演があり、レゲエも話題になるでしょう。私の



海外講師による特別授業(2013)の様子



ゼミでは、ゼミ生企画のもと、夏に強化合宿をして互いの論文原稿を磨きあいます。年度末には3、4回生とも論文集を発行し、この編集もデザインもゼミ生がします。

### 文学部校友会のロゴができました。

# L'eternal

文学部 永遠の  
College of Letters + eternal

「文学部の輪を永遠に」という願いをこめて名付けました。「レターナル」と親しみをこめてご愛用ください。

# 特集② 文学部校友の「いま」



文学部校友の「いま」①

**武本 祐樹さん**  
たけもと ゆうき

地理学専攻  
2014年卒業  
㈱三次元メディア勤務

## 立命館の4年間で学んだことが生きている

立命館大学文学部を卒業してから1年が経ちました。現在は立命館大学発のベンチャー企業に勤務しています。事業内容としては当社開発の三次元認識技術を基に産業ロボットの「目」と「脳」の研究開発と販売を行っています。そんな縁もありBKCがある南草津に住んでいます。

在学中は地理学を専攻し、地図と睨めっこしていましたが、現在は『三次元』や『ロボット』等々、大学講義では出てこない用語を駆使しながら営業として目標に向けて日々努力しています。

文系や理系の違いもあり、周りからは「難しそう」、「営業できる？」など色んなことを言われますが、新しい技術・考え方に触れることの出来る環境に身を置いて仕事が出来ていることに

面白みを感じています。

この感覚は立命館に居たから得られたものだと思っています。2回生でのオリター活動、3、4回生は校友会活動を通して、学部専攻に関わらず様々な人との交流を持つことが出来ました。一人ひとりの経験や専門性を通して、様々な分野のことを知り、自分の視野・考え方を広げることが出来ました。

新しい考えを持つことによって、日々過ごす中で新たな発見をすることが出来るので、充実した毎日を送ることが出来ています。

8月には埼玉県に転勤する予定です。思い出の深い京都・滋賀の地を離れるのはとても寂しいですが、新しい環境へ楽しみの方が大きいです。関東に行っても立命館で得たものを生かし

## 弁護士登録から半世紀を経て

確たる目的をもち文学部に入学し心理学を専攻した私は、昭和29年に卒業したものの、その後の生活を如何にすべきかについては良い考えは浮かばなかった。

そんな時に、大学院の経済学部先輩から「司法試験というのは国家公務員上級試験よりも難しいそうで、毎週土曜日には30人程の卒業生が集まり勉強会をしている」との話を聞いた。

何の予備知識もないまま私も一度受けてみたくなり、それ迄のアルバイトとも就職ともつかない生活を一切打ち切り法律書に取り組んだ。



文学部4回生当時

その勉強も全く幸運にも僅か数年で合格となり、弁護士資格を得た私は、企業法務を専門とされる法律事務所の居候として入所を許されたが、その事務所の恩師は最高裁判所の判事に就任され、その在任中に逝去

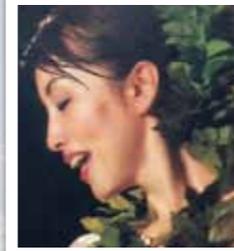
された。

以後、私は独立事務所を設け、主として企業法務を専門とし、企業間の売買、貸借、債権回収、企業内の人事・労務、各種の対応相談等を受けている。その顧問先企業には、生命保険会社、損害保険会社、繊維、医療器具、家庭用品等の製造会社、新聞社、証券取引会社、車輛販売会社等多種多様となり、それらの企業の営業内容や製造物件内容を把握するために必要な知識を得る時間に追われる日々が続いた。

現在、私はこれら企業担当者に対し、直ちに法律一辺倒の回答ではなく、雑談を交えることから始めて依頼者の気持ちを和らげることとしているが、それには文学部で学んだ「雑学」が大変役立っているのである。



文学部心理学専攻当時、内藤教授を囲んで。後列右端が高木さん。



文学部校友の「いま」④

**滝口 潤子さん**  
たきぐち じゅんこ

日本文学専攻  
1981年卒業  
ハワイアンフラ  
インストラクター

## 踊り、踊らせ、踊らされ……。

「自分を表現する手段として私が熱心に取り組んでいるのは『踊る』こと。

毎日心踊らぬ日はあっても身体が踊らぬ日はありません。」  
と2001年の校友会誌りつめい「われら立命人」に2回に渡り拙文を掲載して頂いてからも早14年……。時の感覚は年々加速度的に早くなる。

当時は自分の教室も持ったばかりで、「ハワイ語の勉強もしてウクレレも弾いてバンドも始めました。初ライブもメンバーに助けられて無事終了。これからは小さな子供も教えたい。」と夢を語っている。



その後、バンド活動は10年で解散卒業し、しかし教え子の中にはプロになった子もおり、夢だった小さな子供達クラスもでき、男性メンバーも増え、月曜日から土曜日まで休みなく、週末はイベントがあつたりして、相変わらずな日々である。

「フラ」の意味は「踊り」だが、手の動きには意味があり、言葉であり、そ

の言葉には隠された別の意味まであったりする。なかなか奥が深く、心技体のバランスも難しい。ゴールは曇気楼のようにいつまでも向こうにある。おかげさまで、一生かかってもこれでもう充分だということにたどり着けないだろうから飽きないでいられるのだと思う。

もちろん、単純に踊っていれば楽しいし、癒されるのではあるが、謙虚に研鑽を積み続けねばならんと真面目に思っている。

この考え方は実は学生時代に所属していた落語研究会の影響が大だ。

その立命落研は、2015年の今年創部50周年を迎える。オメデタイ。

文学部のあった清心館と、落研練習していた以学館とを往復していたあの日々は確かに今に繋がっているなあ……と、まさに「人生に無駄なことなし」と思う。



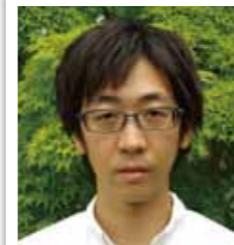
## 文化財を保存するために

現在、私は宮内庁正倉院事務所で修理技術者（修補師）として働いています。主に染織品の修理を担当していますが、正倉院宝物には他にも様々な材質・技法のものがあり、それらをよりよい状態で後世へと伝えられるよう保存管理する業務にも携わっています。

近年、文化財の保存に関しては「予防的保存」といった考えから、如何に劣化をさせないように保存するかということに重点が置かれています。修理は必要最低限にとどめ、後は収納方法や温湿度の管理など、周りの環境を操作して劣化を防ぐというものです。

また、文化財の伝統的な保存方法として「曝涼」という考え方も無くてはならないものであります。曝涼とは、普段収蔵庫等にしまっ

た蔵品を外に出し、太陽光に曝し風を通すことで虫や黴の被害を抑制する方法であり、古来より文化財の保存には常套的に用いられてきました。正倉院では奈良時代より行われており、その後途切れがちな時代がありつつも、1883年（明治16年）からは毎年曝涼が行われています。現在では正倉院宝物は温湿度の管理された耐火性の宝庫内に収納されているため、外に出して曝涼を行うことはしていませんが、1年に一度、すべての宝物を目視で確認し異常が無いかどうかを確認する「点検」を行っています。このような仕事に携われる事を誇りに思うと同時に、かけがえのない正倉院宝物を後世に伝えるべく、責任をもって日々業務を行っています。



文学部校友の「いま」④

**永田 大輔さん**  
ながた だいすけ

心理学専攻  
2005年卒業  
宮内庁正倉院事務所  
修補師